

新規
事業

「土曜日の教育活動」の充実を目指して

～東京都の「土曜日の教育支援体制等構築事業」が始まりました～

東京都では、平成27年度から「土曜日の教育支援体制等構築事業」を開始しました。

◆事業の趣旨や実施状況について

地域の多様な経験や技術を持つ人材・企業等の協力によって、実社会につながるプログラムや教科等に関連したプログラムなど、土曜日に体系的・継続的なプログラムを子供たちに提供し、豊かで有意義な土曜日を実現することを目指しています。

平成27年度の計画は、区市町村の10自治体、都立学校の16校が実施予定となっています。各自治体や都立学校では、小・中学生や高校生等を対象として、教科の補習・科学実験教室、伝統文化・芸術・スポーツ活動、キャリア教育に関する取組、その他多様なプログラムを企画・実施しています。そこで、本年度の実践の事例を一部御紹介します。

【取組事例紹介】

新宿区教育委員会「理科実験教室」

～理科好きな子供たち集まれ!!

将来、科学者を目指そう!!～

対象：区内小中学生(小6、中1～2)

新宿区では、科学教育に優れた経験を持つ人材や大学教授等先端技術に携わる人材の協力により、子供たちの理科への興味・関心を高める取組の一環として、平成22年度から「理科実験教室」を実施しています。(平成27年度からは都の補助事業を活用しています。)この教室は、希望する小・中学生が1年間継続的に参加し、月に1回程度、普段学校では体験できないような理科実験をするプログラムとなっています。基本的には小・中学生それぞれ時間帯を分けて行っています。



解剖実験

生命の神秘に挑む～動物のつくり～

平成27年度は年10回「化学(液体窒素実験、電池作成)、物理(放射線観測)、生物(解剖)、環境(微小生物・自然観察等)、情報(ロボットプログラミング)、天文(宇宙の神秘)」などの毎回異なるテーマを計画しています。

教室の企画・運営等のコーディネートは区立教育センターの専門職員が担っています。

取材した第4回の教室では、東京学芸大学講師である金井塚先生の指導の下、実際にイカやイワシの解剖を行い、生物の体の仕組みを比較しつつ自分の目で確かめ、先生の解説に刺激を受けていました。

また、主催する教育委員会としては、現職教員の授業の参考としてこのような場が生かされることも期待して実施しています。

都立多摩高等学校「土曜講座」

～「青梅のしごと人」～

対象：多摩高等学校生徒

都立多摩高等学校では、キャリア教育の一環として、カフェ経営者、林業家、ラフティングインストラクターなど地元青梅で働く先輩の経験や思いなどを聞いたり、体験したりするシリーズのプログラムを実施しています。



自分のカフェをつくる
(カフェ経営者のお話)

講座を担当している同校副校長の延味先生は、「地域が人を育てる」という考えの下、「君たち(生徒)を学校から外へ連れ出すのが私の夢である」という思いを込めて企画しています。

コーディネーターは、地域再生に尽力されている市中心市街地活性化協議会のタウンマネージャーの國廣さんが担い、御自身のネットワークを使って多様な職業人によるプログラムづくりをしています。

第1回は、地元のカフェ経営者(山田さん)が講師で、バスガイドとして働いていたノウハウを生かし、まち案内に強いカフェを目指して経営している思いなどを話しつつ気負わずに働いている姿が印象的でした。参加した高校生は最初緊張しているようでしたが、徐々に山田さんや國廣さんとの会話に交わって、自身の将来のことを考えるきっかけとなったようです。